

第14回 人権ショートレター 入賞作品 発表



人間らしく生きること、差別や偏見に対して感じたこと、お互いの個性を認め合うことなど、「人権」を大切にする気持ちを手紙に…。全国から536通の応募がありました。

入賞作品を紹介します。(敬称略、佳作はタイトルのみ)

問合せ＝人権施策推進課 (内線 332・333)

小・中学生の部

「1人じゃないで」

最優秀賞

大和郡山市 山中 大雅 (13歳)

最近、元気無いみたいやけど、何か悩み事でもあんのか?何でも相談に乗るで!オレだけじゃなくてみんなも相談に乗ってくれるはずやで!1人じゃないこと忘れんなよ!

「笑顔」

優秀賞

大和郡山市 佐藤 裕太 (11歳)

笑顔があると希望が生まれる希望があると幸せが生まれる幸せがあると笑顔が生まれる。ずっとずっと続いてく。みんな笑顔を生んでいこう。そしたら、希望が増えていく。幸せが増えていく。笑顔は色々な物に繋がる。

「認め合う」

優秀賞

大和郡山市 上村 萌珠 (12歳)

みんな同じように生まれたんだから。みんな時には失敗して、時には成功する。得意なものもあるけど苦手なものもある。完璧な人なんていない。そんなところも認め合って、生きていくことが大切だと思う。

「『人権』誰にでもあり、最も大事な権利」

優秀賞

大和郡山市 布村 優伍 (12歳)

人権、憲法にもあるように、決っておかしてはならない権利です。人権は人間である以上、誰にでもある権利でかつ最も大事な権利です。老若男女関わらず友好の輪を築くこと、それが人権を守るための成すことなのです。

佳作

「いつも優しくしてくれる親友へ」

大和郡山市 坂本 佳菜子 (12歳)

「同じ人間」

大和郡山市 多田 侑生 (11歳)

「ありがとうおじいちゃん」

大和郡山市 佐野 匡史 (13歳)

「大切なこと」

大和郡山市 川本 奈央 (12歳)

「思いやれる心」

大和郡山市 藤森 美花 (10歳)

高校・一般の部

「おじいちゃんへ」

最優秀賞

神戸市北区 橋本 明香里 (19歳)

おじいちゃんは時々私の名前を忘れてしまうね。でも私の帰りを毎日必ず待ってくれるね。雨で冷たくなった靴をそっと温めてくれたこともあったね。おじいちゃん、いつもこころをほっこりさせてくれて、ありがとう。

「ふつう」

優秀賞

長野県埴科郡 亀井 綾乃 (16歳)

ふつう、女の子はそんなことしないのよって、あなたは言うけど、ふつうって何?私は昆虫採集が好き。それでいいじゃん。私の「ふつう」とあなたの「ふつう」は違うの。あなたの「ふつう」を押しつけないで。

「生きる力」

優秀賞

大阪市北区 横山 和也 (31歳)

大怪我で後遺症も残りましたが、両親から「家族愛」、病院のスタッフから「勇気」、友人から「希望」、妻からは忘れていた「笑顔」を思い出し、娘から「生きる力」をもらいました。本当に生きてよかったです。

「画面の前のみんなへ」

優秀賞

愛知県 匿名希望

匿名だからといって大切な人を傷つけていませんか?あなたの何気ない書きこみで笑う人もいるかもしれませんが、傷つく人のほうがずっと多いです。どうせなら、みんなが喜ぶ書きこみをしたいよね。

佳作

「ちがっていいじゃないか」 千葉県柏市 鳥居 万祐子 (17歳)

「あかりの源になる人へ」 大和郡山市 日永 直将 (16歳)

「はじめの一步」 愛知県稲沢市 紅林 はづき (24歳)

「無題」 京都市北区 伊香 (28歳)

「星や花のように」 横浜市旭区 木村 あづさ (44歳)